

# いち・にの・さんしん

原三信病院 広報誌

July 2003 NO. 4



(財)日本  
医療機能評価  
機構認定病院

病院理念  
病人のための病院



作品:写真部提供(米倉礼子「朝倉三連水車」)

病院基本方針

- 一、質の高い医療
- 一、居心地の良い環境
- 一、心のこもったサービス

弛まない自己改革を!

副院長 原 直彦

長引く経済不況の中、様々な改革の必要性が叫ばれて久しくなっていますが、医療界も例外ではありません。厳しい医療財政を理由に、国民・国・医療機関の三者が痛みを分かち合うという改革が、着実に進められております。昨年の診療報酬引き下げ、そして、4月からのサラリーマン3割負担など様々な事象が実施され、今後も更なる改革が行われる事と思っております。我々は、その本質をしっかりと見守っていく必要があると思っております。

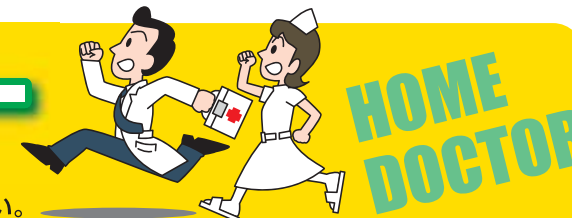
一方、これらの改革を、与えられる改革とするならば、これからは、自ら、発信して取り組む「自己改革」こそが求められるのではないのでしょうか。当院でも、様々な自己改革に積極的に取り組んでおります。例を挙げれば、第三者機関である「(財)日本医療機能評価機構」に、患者様本位の医療機関であるかどうかの審査を受け、今年2月、その認定を受けることができました。更に、同月から電子カルテの運用を始め、情報のよりよい提供、正確な記録の保全などへの取り組みも開始致しました。

また、昨年9月に発行致しましたこの広報誌も、ご利用頂く方々に、当院の特徴や新しい診療内容などを、更には皆様のお役に立つ医療情報をお知らせするために考えた新たな取り組みの一つです。私達、原三信病院は、この地で百二十数年継続してきた民間医療機関として、今後も、いかにあるべきかを真摯に考え、自己改革を続けていきたいと思います。



## わが町のホームドクター

ホームドクターのご紹介をさせていただきます。私たちは、地域の先生方と協力して皆様のお役に立つよう努めています。どんなことでもホームドクターにご相談ください。



施設名 きのこ医院

登録医 李 竜樹

住所 福岡県粕屋郡志免町志免3丁目4-10

電話番号 092-936-3798

診療科 内科・外科・小児科  
アレルギー科・肛門科・放射線科

診療日 月・火・木・金・土・日  
(土・日AMのみ)



施設名 ながら医院

登録医 長柄 均

住所 福岡市博多区東比恵3丁目20-1-2F

電話番号 092-411-2358

診療科 内科・小児科・神経内科・リハビリテーション科・外科・整形外科

診療日 月~土(土AMのみ)  
※火・木は整形外科休診



施設名 向井外科・麻酔科クリニック

登録医 福嶋 和生

住所 福岡市博多区博多駅前2丁目1-1-6F

電話番号 092-474-2409

診療科 麻酔科・外科  
リハビリテーション科

診療日 月~土(水・土AMのみ)



施設名 近間整形外科クリニック

登録医 近間 英明

住所 福岡市博多区網場町1-17-2F

電話番号 092-271-7755

診療科 整形外科・リウマチ科  
リハビリテーション科

診療日 月~土(土AMのみ)



施設名 勝治耳鼻咽喉科医院

登録医 小路丸 篤

住所 福岡市博多区中呉服町3丁目10-1F

電話番号 092-281-6027

診療科 耳鼻咽喉科

診療日 月~土(木・土AMのみ)



施設名 朝日クリニック  
平山内科・皮膚科

登録医 平山 泰一郎

住所 福岡市博多区博多駅前2丁目1-1

電話番号 092-411-2416

診療科 内科・皮膚科

診療日 月~土(土AMのみ)  
※木は16時まで



※ここでご紹介する先生方は、当院の開放型病院制度(医院・クリニックの医師が当院において共同で診療ができる)の登録医になって頂いている先生です。

## 救急指定 原三信病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡市博多区大博町1-8

TEL ■ 092(291)3434

FAX ■ 092(291)3424

URL ■ <http://www.harasanshin.or.jp>

Eメール ■ [info@harasanshin.or.jp](mailto:info@harasanshin.or.jp)



### 診療時間

月~金曜日 9:00~13:00 14:00~17:00  
土曜日 9:00~13:00

※日・祝日および8月15日・12月31日~1月3日はお休みです。但し、急患の患者様は、救急外来にて診察いたします。

### 診療科目

総合診療科・循環器科・消化器科・呼吸器科・感染症免疫科・糖尿病科・血液内科・腎臓内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科・放射線科・麻酔科・臨床病理科・歯科・人間ドック



# 病院にゆゝす

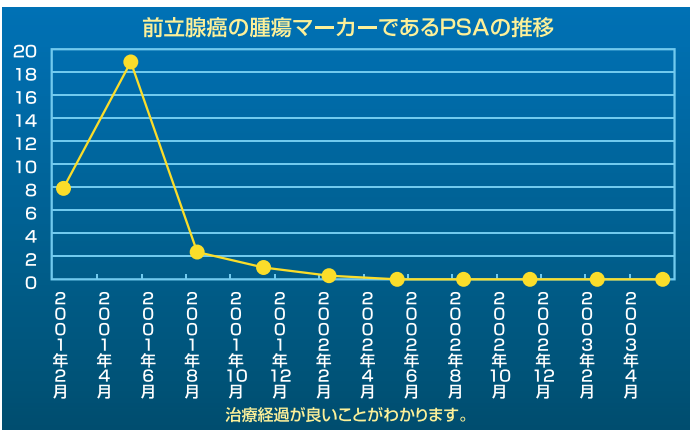
## 電子カルテ導入

平成十五年二月一日より開始

当院では、平成15年2月1日より患者様の診療記録を、従来の紙のカルテからコンピュータを用いた電子カルテというシステムに変更しました。当院の電子カルテは院内各所に置かれた310台のコンピュータで操作されます。すべてのコンピュータは中央の2台の大型コンピュータにつながっています。1台で十分なのですが、もう1台は予備です。電子カルテでは、患者様の生年月日・保険内容・アレルギー・同姓同名の有無などの大切な情報が共有され、間違いがおきないようになっています。医師は何時でも何処からでも指示を出すことができ、検査結果は報告書を送ることなく、すぐにわかります。検査結果の経過をグラフにして、わかりやすく表すこともできます(図)。検査結果を一覧にお渡しできるなど情報公開にも大きく役立ちます。

現在、従来の紙カルテ数万冊に記載された内容を電子カルテへ転記中です。転記中は診療時間が長くなることもありますが、完成時には大幅に改善しますので御期待下さい。

なお、電子カルテを扱える権限は、医師・看護師・技師・事務職員ごとに限定しており、情報管理には十分配慮しています。



副院長  
山口 秋人



# いち・にの・さんしん

## 職場紹介コーナー

看護部(外来)編

原三信病院の外来の看護部スタッフは45名です。医療ニーズが多様化するなかで各科外来においても専門性を活かした検査や治療が行われています。輸血や化学療法をはじめ、肝臓癌の治療として活性化自己リンパ球移入療法、失禁の予防と治療のための体操指導など盛りだくさんです。また、院内および近隣の医療機関と連携をもち、積極的に不妊治療を行う良好な成績を上げております。

さらに平成14年に人工肛門や人工膀胱の患者様を対象としたストーマ外来を開設し、ストーマをお持ちの患者様および家族の方に対しケア方法の指導と退院後の生活指導を行うとともに年に1~2回ストーマ教室を開催しています。



左から 泌尿器科主任 金子、内科主任 宮田、救急部主任 新

待ち時間が長く患者様には大変ご迷惑をおかけしておりますが、短くあわただしい時間の中で、温かい心と、きめ細かな看護の提供、外来における継続看護の質の向上を目指し、日々努力と工夫を重ね取り組んでおります。

何かございましたらお気軽に声をお掛けください。

外来科長  
柳迫 昌美

## 日帰り手術 センターだより

外科編

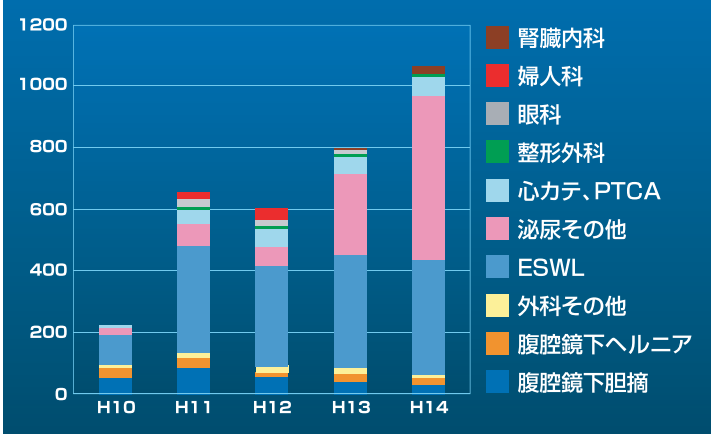
当院では、平成10年11月、手術室と直結した6床の「日帰り手術センター」を開設しました。その後、センターを利用していた患者様が多くなり、希望の日に手術が受けられないなど、ご迷惑をおかけするところが出てまいりましたので、平成15年7月に「日帰り手術センター分室」を開設いたしました。平成15年3月までに、3500人以上の方々に「センター」を利用していただきました。

米国では入院医療費がとても高額なため、手術の約八割が「日帰り」で行われております。日本でも、今年度から自己負担率が一律3割となり、自己負担の限度額もかなり引き上げられたため、特に手術時の負担が増えています。通常の入院治療に比べて、2割から5割も安い「日帰り手術」は今後ますます意義を持つものと考えられます。

まだまだ、「日帰り手術」に不安をもたれる方が多いようですが、入院が予定より伸びた方は、全体の1%以下です。

また、退院後に緊急入院をされた方は3500人中わずかに12人、0.3%しかいらっしゃいません。最近では、遠方からも、日帰り手術を希望され来院される場合も増えてまいりました。仕事や生活上の理由から手術に踏み切れず、辛い思いを我慢して

## 日帰り手術の術式別件数の変化



日帰り手術センター長  
外科主任部長  
江口 徹



「日帰り手術」を広げ、もっと多くの患者様に喜んでいただきたいと考えられています。

「日帰り手術」を広く、もっと家庭に早く復帰できます。これからは、安全第一に、

「日帰り手術」を広げ、もっと多くの患者様に喜んでいただきたいと考えられています。

## 医学雑学講座

### 糖尿病のQ&A

糖尿病とは、血液中のブドウ糖(血糖)が過剰になる病気です。糖尿病になりやすい体質(遺伝要因)と肥満・過食・運動不足・ストレスなどの生活習慣の悪化(環境要因)が重なると糖尿病を発症します。現代の私たちの生活は以前に比べ豊かになりましたが、同時に糖尿病になりやすい環境であるとも言えます。現在、40歳以上の10人に1人は糖尿病であり、糖尿病予備軍はそれ以上と言われています。

糖尿病は軽いうちはほとんど症状がなく、いつ発症したのかさえないかもしれません。しかし、放置すると気づかないうちに全身にさまざまな障害(合併症)がひろがり、重症の場合は失明や腎不全(血液透析が必要になる)に至ることもあります。脳梗塞や心筋梗塞の発症も増加します。こういったことから、糖尿病はサイレント・キラー(静かなる殺人者)とも呼ばれています。



糖尿病の治療の基本は食事や運動を含めた生活習慣の改善です。食事療法・運動療法を適切に行っても血糖値の改善が不十分である場合は、飲み薬やインスリン注射による治療が必要になります。「血糖値が少し高め」といわれた時期に生活習慣を改善すること、つまり、早期発見・早期治療が糖尿病の悪化を防ぐポイントです。糖尿病の初期はほとんど症状がありませんので、早期発見には血液検査(血糖検査)が必要です。年に一回は健康診断を受け、血糖値が少しでも高い場合は医療機関を受診し今後の対処法を相談される事をお勧めします。

糖尿病の検査・治療は当院内科外来でも行っております。病棟(入院)では糖尿病教室を定期的に開講し、食事療法や生活指導に力を入れております。血糖値の異常を指摘された方、糖尿病が心配な方は当院糖尿病科にご相談ください。

糖尿病科  
今村 美菜子



## 薬のQ&A

### 薬の剤形について

薬には錠剤、カプセル、坐剤、貼り薬など様々な形があります。薬は胃で溶け、腸へ運ばれ、主に小腸で吸収され血中に入り効果を発揮します。

**錠剤やカプセル**は胃で溶ける成分、腸で溶ける成分等の溶ける順番や時間がきちんと設計されています。カプセルをはずして飲んだりすると効果がきちんとでなかつたり副作用が出たりすることもあります。中には、口の中で噛み砕いて唾液で溶解させて服用できるチュアブル錠もあります。

**坐剤**は肛門から入れて使います。薬の成分が早く血液に溶け込むので即効性があります。消化管を通らないので胃も荒れませ



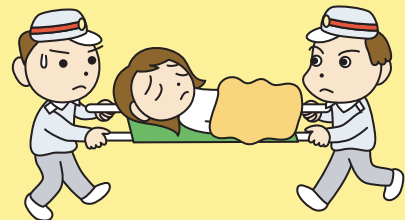
**貼り薬**は皮膚から少しずつ吸収されるので効果が長続きします。薬は様々な剤形をしており、それぞれ意味があるので指示を守ってお使いください。

薬剤科  
中島 彰子

## 編集後記

この広報誌も、はじめての夏を迎え、当院の様々な事をご紹介させて頂く様になって1年が経ちました。内容・構成ともまだ、まだ不十分な点が多く、もっといいものができるとは思いますが、皆様のご意見・ご要望をお聞きしながら、よりよい紙面作りを努めてまいります。

広報委員会 委員長 原 直彦



● 当院は、救急指定病院です。急患の患者様は救急外来にて**24時間365日診察**を行っています。

● 当院では医療機関の機能分担と地域連携を推進しています。従いまして、現在他の医療機関に受診中の方は**紹介状**をご持参下さいませようご協力お願いします。